

# こどもと健康

NO・147-2

2014・6・30

## アデノウイルス感染症、拡大中！

高熱の出る感染症の代表、インフルエンザの流行はゴールデンウィーク終了と共に終わりました。現在、高熱のでる感染症としてアデノウイルス感染症が増えてきました。アデノウイルスは夏のウイルスで咽頭結膜熱（所謂、プール熱）、扁桃炎、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎（所謂、はやり目）等の原因ウイルスです。大阪府の感染症サーベイランスでも6月2日からの第23週では咽頭結膜熱は第4位にランクしており、泉北ではかなり流行しています。アデノによる扁桃炎は39℃以上の高熱が出て5日続くことも珍しくはありません。結膜炎を伴うと、プール熱とも言われますが、プールで感染することは殆んどなく、多くはカゼと同じく飛沫感染です。学校保健安全法で出校停止となっており、発熱などの主要症状が治まった翌日から2日間休む必要があります。インフルエンザに対するタミフルのような薬がありませんので、対症療法で経過を見ます。ワクチンもありません。例年、夏になると流行して、ヘルパンギーナ、手足口病と共に3大夏カゼと小児科医は言っています。うがい、手洗いを心がけましょう。

## アデノウイルス感染症について 「プール熱」と「はやり目」

アデノウイルスは50種類程度があって、咽頭結膜熱（所謂、プール熱）、急性扁桃炎、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎（所謂、はやり目）の他、心筋炎や出血性膀胱炎等を引き起こす、夏に活躍するウイルスです。今流行している咽頭結膜熱は主にアデノ3型ウイルスの感染により、4~5日続く高熱の他、のどの痛み、鼻汁、リンパ腺の腫れ、目の充血等を伴い、時に肺炎等を合併します。目の充血は熱が治まっても持続し、もういいだろうと思ってプールで遊ばせた所、水を介して一緒に遊んだ子に感染してしまい、プール熱と言われるようになりました。しかし、多くはカゼと同じく、飛沫感染と考えられます。流行性角結膜炎は主にアデノ8型ウイルスの感染症で感染力が強い為、幼稚園や保育所で一旦発生すると流行はなかなか押さえられません。手洗いを徹底することとタオルの共有は避けるべきです。出血性膀胱炎はアデノ11型ウイルス等により、血尿、排尿痛、頻尿等があり、1~2週間持続します。咽頭結膜熱は学校保健安全法で出校停止となっており、主要症状が治まってから2日間休学する必要があります。幼稚園、保育所もこれに準じており、他のアデノウイルス感染症も同じように対処する必要があります。

アデノウイルスにはインフルエンザウイルスに対するタミフルのような薬はなく、対症療法しかありません。又、ワクチンもありませんので、集団生活をしている場合、流行期には予防に気をつけましょう。余談ですが、アメリカでは新兵に4型と7型のワクチン接種が行われています。

# コクサッキーウイルス感染症について 「手足口病」と「ヘルパンギーナ」

コクサッキーウイルス感染症のヘルパンギーナが例年の通り、流行が始まりました。ヘルパンギーナはコクサッキーウイルス6等の感染によって、急な高熱とノドの痛みで発症し、のどの奥の粘膜に痛みを伴う1～2mmの水疱と潰瘍が出来て、嚥下困難となり、食欲も落ちます。次第に潰瘍周辺に紅班が出来て4～5日で軽快します。稀に無菌性髄膜炎を合併することもあります。軽症で済むケースが殆んどです。例年、ヘルパンギーナと相前後して流行するのが手足口病です。手足口病はコクサッキーウイルスA16による感染が最多でA5やB2、その他、同じグループのエンテロウイルス71も原因となります。手足口病は名前の通り、手のひらや足の裏に発疹が、口腔粘膜、特に頬粘膜に水疱、潰瘍ができて、口の中を痛がりヨダレが出てきます。一般的には微熱のケースが多いのですが、高熱の場合はエンテロウイルス71を疑います。手足以外にも発疹は足の甲からお尻にかけて丘疹を伴うケースも良くあります。一般的には軽症ですが、エンテロウイルス71の場合は熱も高く、無菌性髄膜炎や脳炎を合併して重症化することがあります。一般的にヘルパンギーナの方が熱は高い傾向にありますが、いずれも発熱は1～3日で、水疱も1週間程度で軽快します。特別な治療法がありませんので、すっぱいものは避け、口当たりの良いものを与えましょう。熱もなく、食欲が回復すれば、集団生活は可能です。

## 熱中症に注意しよう！

梅雨入りと共に蒸し暑くなってきました。この季節になると熱中症がマスコミを賑わせます。以前は「日射病」や「熱射病」に分けられていましたが、最近では「熱中症」と総称されます。直射日光に長時間さらされたり、蒸し暑い場所に長時間いると罹ってしまいます。汗をかくことにより、体の中の水分やミネラル、主に塩分が失われることにより、体温が上昇し過ぎてしまうことにより発症します。初めのうちは沢山汗をかいて、めまいや立ちくらみがあり（1度、軽症）、進行すると逆に汗が出にくくなって頭痛、吐き気、嘔吐が現れ全身倦怠感を訴えます（2度、中等症）。更に進行すると、意識がもうろうとして痙攣を起こしたり、体温が40℃を超えることもあります（3度、重症）。特に、体温調節が下手な子どもやノドの渇きに対する感覚が鈍る高齢者に体の水分が不足し易くなります。暑い部屋や車の中でも起こりますので、暑い季節には子どもや高齢者はこまめに水分を補給しましょう。予防には所謂スポーツ飲料でも良いのですが、症状が出始めたらもう少し塩分の濃いOS-1等の経口補水の方が良いでしょう。炎天下の外出にはスポーツ飲料を持って帽子を被り、日陰を選んで歩きましょう。こまめに水分を補給し、1度の症状が出たら、風通しの良い涼しい場所に寝かせて衣服を脱がせ、水分を補給し、冷たい水でぬらしたタオルで体を冷やしましょう。2度の症状が出れば、病院を受診、3度の場合は救急車で病院を受診して下さい。

もうすぐ、夏休みです。普段から運動をして、熱中症に負けない体を作りましょう。

## 夏季休診のお知らせ

7月22日（火）～30日（水） 休診